

輸入住宅で自宅を建てたわけ

<住宅の完成見学会は、学びの場>

平成の時代になり、いよいよ自宅を新築する夢が膨らんでいった時、週末ともなれば、ハウスメーカーや工務店の新築住宅の完成見学会に行ってみることが家族の恒例イベントでした。

そこで知った、日本の住宅の現実。多くは、悲しいかな20年の経つと住宅部分の資産価値が、「ゼロ」になってしまいうし、さらに、平均20～30年で、壊されて建て替えられていることを知り、なぜ、そうなるのか、せつかく建てる自宅は、絶対そうしたくない、と強く感じたものでした。

また、たくさん訪れた見学会でわかったことは、同じような坪単価なら大手ハウスメーカーの住宅と輸入住宅とのグレード感の違いは歴然であるということでした。

大手ハウスメーカーの住宅の価格には、会社の維持費としての経費が相当含まれているので、割高になっているのは当然ですが、一方、大手なら安心できるという根拠なき安心感はあるかもしれません。

しかし、割高な部分を、そのまま住宅の建築費に回せば、明らかにグレードの高い住宅がつくれそうなんですけど、それには、素人の個人が、工務店任せでは、きちんとした工事内容の判断ができるわけもなく、やはりここは、2×4工法を知り尽くしたプロの設計士さんに、設計や工務店との調整を頼んで、用意できる建築資金で、でき得る最大価値の住宅を設計してもらうのが得策だな、と気が付きました。ハウスメーカーの工事単価に含まれる経費から比較すると、設計士さんにお支払する設計料は、いくらでもないんですよ。

<永く価値を維持できる住宅ってどんな住宅>

日本には、伝統的な和風の住宅はありますが、洋風住宅では、なんちゃって洋風デザインの家がほとんどで、どうもうっとりするような素敵なデザインの住宅にお目にかかるのは、珍しいことです。

一方、アメリカの住宅は、永く歴史のある伝統的デザインで建てられたものが多く、小さくても素敵なデザインの住宅があり、まさに夢のよう。さらに、住む人が、住宅をきちんとメンテナンスしていれば、買った時よりも価値が上がって高く売れ、より質の高い住宅に住み替えができるという話にびっくりしました。

何故なのか？この辺の詳しいお話は、是非、LIV 設計室のスタッフの方々に聞いてみてください

ポイントは、「デザイン」「機能」「性能」であり、そのバランスが取れていることのようにです。あっそうでした、LIV 設計室の菊地さんとのご縁ができたのも、たくさん見に行った完成見学会からのご縁でした。実際設計したものを、完成見学会で拝見させていただくと、設計意図が現物を見ながら聞くことができ、2×4設計のプロに設計してもらうことの重要性が、良く分かりました。

何ととっても、LIV 設計室さんの設計で建てた住宅は、皆がうっとりするデザインのものばかり、家の中の機能性や性能もすばらしく、それでいて建築単価が、高いわけではないのがやっぱりすごいです。LIV 設計室さんの完成見学会に行けばいくほど、この感が強くなっていきました。

こうしたことから、私もどうせ家を新築するなら、100年経ても価値が落ちない「アメリカのような住宅」に住みたい、と夢を描くようになりました。

<デザイン・機能・性能、そのバランスを重視して設計してもらう>

私の場合は、まず、外観の「デザイン」として、クラフツマンスタイルが好みでしたので、事務所でお借りしたプランブックなどから、こんなイメージの外観の家をしたい、ということ伝えることから始まり、これまで思い描いていたたくさんの希望を写真などと伴に伝え、取り入れてもらいました。外観のデザインは、とてもバランスが取れていて気に入っています。

次に「機能」つまり使い勝手がいいことでは、1階リビングと吹き抜けを通しての2階個室との連続性のある空間構成とインテリアは、家族の気配が感じられて、やっぱりプロの仕事という感じです、さらに導線を考えたキッチンや、半地下を含めたたくさんの収納など、随所にアイデアが盛り込まれています。

さらに、「性能」では、耐久性はもちろんのこと、気密性の良さ、ドライウォール工法によるクリーンな室内環境とメンテナンスの簡単さには満足です。

将来のリフォームや設備交換時にも簡単に対応できるよう設計してもらいました。1階床下のチェックは自分でも入って行けるようになっています。

以上、私の住まいづくりの経験を簡単に紹介させていただきました。

住まいづくりは、一生の中でも、最も高い買い物ですので、皆さんもたくさん研究して家族にとって価値ある住宅を、是非手に入れて頂きたいと思います。できれば、家族みんなで楽しみながら。LIV 設計室さんは、きっとそのお手伝いをしてくれる、すばらしい設計事務所であると実感しました。